

高齢社会の現状・課題

政策の方向性

政策提言

1. 日本の高齢社会の現状

(1) 日本の総人口と高齢化率

平成24年10月の日本の総人口は1億2,752万人。高齢化率は過去最高の24.1%を記録した。推計では、10年後の2025年に高齢化率は30%を超え、さらなる高齢化社会が到来する。

(2) 高齢者の家族と世帯

高齢者のいる世帯は全世帯の41.6%を占める！そのうち、高齢者のみの世帯が過半数を占めており、高齢者のみ世帯の増加による様々な問題の発生が懸念される。

(3) 高齢者の健康と福祉

介護保険制度での要介護、要支援者の数は年々増加！今後も高齢者の増加に伴い、日常生活に支援が必要な高齢者の増加が懸念される。

(4) 高齢化による社会保障給付費への影響

平成22年度の社会保障給付費は過去最高の水準！その多くを高齢者関係給付費が占めており、今後もさらなる増加が見込まれる。

2. 超高齢社会での課題

課題1

社会保障給付費の増加

課題2

支援が必要な高齢者の増加

1. 課題の分析

課題1. 社会保障給付費の増加

問題点は…

現役世代の割合の減少

今後対応していくために必要なこと…

サービス利用者減少のための「健康づくり」

高齢者の「活躍の場の拡大、能力の活用」

課題2. 支援が必要な高齢者の増加

問題点は…

介護者のいない高齢者のみ世帯への対応

公的サービス以外のニーズへの対応

今後対応していくために必要なこと…

行政サービスだけでは対応できないことが予想されるため、地域資源の活用や、「地域での互助の推進」を行う。

地域での互助の基盤となる「地域コミュニティの活性化」を行う。

2. 政策の方向性

取り組むべき4つのキーワード

高齢者の「健康づくり」

高齢者の「活躍の場の拡大」

「地域での互助の推進」

「地域コミュニティの活性化」

これらをまとめると

理想とする社会

高齢者がいつまでも健康で安心して生活し、いきいきと地域や社会に活力を与えることのできる社会

理想とする社会:

高齢者がいつまでも健康で安心して生活し、いきいきと地域や社会に活力を与えることのできる社会

理想とする社会の創造のための目標、市町村の役割

目標1: 高齢者の活躍の場の確保

市町村の役割: 元気な高齢者を今後の地域活動の主役に

目標2: 高齢者の健康づくりの推進と、支援が必要になっても安心して暮らせる地域づくり

市町村の役割: 住民相互の互助の推進、高齢者の生きがいづくり

目標3: 地域コミュニティの強化

市町村の役割: 多くの住民が地域活動へと参加できる土台、きっかけづくり

政策提言 自治会情報化推進事業

政策のねらい、効果

・元気な高齢者の地域での新たな活躍の場の確保
・インターネットを利用した新たなコミュニティの場の創造による、地域コミュニティの強化

政策提言 情報機器を活用した地域活動の推進

政策のねらい、効果

・情報機器の活用による、住民の自主的な地域活動、健康づくり活動の推進

政策提言 情報格差解消のための、高齢者による無料パソコン相談

政策のねらい、効果

・情報格差の解消とともに、高齢者の地域での活躍の場を創る